

出品作家略歴（５０音順）

作家名	略歴
青木 野枝 （あおき のえ） AOKI Noe	昭和33(1958)年東京都に生まれました。武蔵野美術大学大学院造形研究科修了、在学中より鉄を素材に制作を始めます。厚い鉄板を、細く円や線状に溶断し、組み合わせで溶接する方法で制作し、鉄の持つ重く硬いイメージから解放され、自由に軽やかな世界を創り出しています。平成11(1999)年度芸術選奨文部大臣新人賞、同29(2017)年中原悌次郎賞など数多く受賞し、国内外で展覧会やワークショップの活動を行っています。平成21(2009)年からは多摩美術大学美術学部彫刻科で後進の指導にもあたっています。
顰 嘸 （あいおう） AY-0	昭和6(1931)年茨城県に生まれました。本名は飯島孝雄(いじま たかお)といいます。昭和29(1954)年に東京教育大学芸術学科を卒業しました。在学中の昭和28(1953)年からデモクラート美術家協会に参加し、瑛九の影響を強く受けます。昭和30(1955)年に池田満寿夫らとグループ実在者を結成しました。昭和33(1958)年渡米し、以後ニューヨークと日本を行き来します。昭和39(1964)年、ニューヨークを中心としたフルクサスのグループに参加しました。昭和37(1962)年以来、光のスペクトルである虹色を用いた作品を発表し続け、虹の画家として国際的に活躍しています。平成2(1990)年の日本芸術大賞をはじめ、数多く受賞しました。
磯辺 行久 （いそべ ゆきひさ） ISOBE Yukihisa	昭和10(1935)年東京都に生まれました。高校在学中に、加藤正を通じて瑛九と知り合い、デモクラート美術家協会に参加します。昭和34(1959)年に東京芸術大学美術学部絵画科を卒業し、昭和37(1962)年頃からワッペンを貼り付けたようなレリーフ状の作品を発表します。昭和40(1965)年に渡欧し、その後ニューヨークにおよそ10年間滞在します。その間に関心は環境計画やエコロジーの問題に向けられ、作家活動から離れました。瑛九の精神的な影響を強く受け、現代美術の先端を歩きました。
井上 有一 （いのうえ ゆういち） INOUE Yuichi	大正5(1916)年東京都に生まれました。昭和16(1941)年から上田桑鳩に師事しました。昭和27(1952)年に森田子龍らと墨人会を結成し、機関誌『墨人』の編集を行うなど造形芸術としての書を追求しました。第4回サンパウロビエンナーレに招待出品し、後に出品作「愚徹」がハーバード・リード著『近代美術史』に掲載されるなど国際的に高い評価を得ました。凍墨やボンド墨など素材と描法に工夫を凝らし、一字書のみならず、多文字書、言葉書など、生涯にわたり型破りで自由な書を制作しました。昭和60(1985)年没。
上村 次敏 （うえむら つぐとし） UEMURA Tsugutoshi	昭和9(1934)福岡県久留米市に生まれました。中学生の頃は、ヨーロッパの城など建築物の写真を見て描き、宮崎県立宮崎大宮高校に進んでからは、ゴッホの自画像に感銘を受け、自画像ばかりを描いていたといいます。昭和28(1953)年同校を卒業。昭和31(1956)年に上京して美術研究所に通い、翌年武蔵野美術学校に進みました。在学中にシェル美術賞受賞、二紀展にも出品します。卒業後は大手百貨店に就職し、展覧会の企画運営の仕事をしました。西欧風の壮麗な建築や北方ルネサンスの巨匠の作品をモチーフに、遠近法が同一空間内で逆転するなど、不思議な空間を創り上げました。平成10(1998)年没。
瑛九 （えいきゅう） EI-KYU	明治44(1911)年宮崎市に生まれました。本名は杉田秀夫といいます。大正14(1925)年、旧制県立宮崎中学校を中退して上京、日本美術学校に入学し油絵の制作を始めました。この頃から美術評論を執筆するようになります。昭和11(1936)年、フォト・デッサン集「眠りの理由」を瑛九の名前で発表します。昭和12(1937)年、自由美術家協会の創立に参加。昭和26(1951)年、自由と独立の精神で制作することを主張しデモクラート美術家協会を設立します。この年浦和に移り、銅版画と石版画の制作に専念し版画の普及にも努めました。その間も油彩画の制作を続け、作品は点描の抽象へと移行します。昭和35(1960)年、点描の作品による個展を開催しました。同年没。戦後の美術史に前衛美術の先駆者として確かな足跡を残しました。
岡峯 龍也 （おかみね たつや） OKAMINE Tatsuya	明治29(1896)年宮崎県日向市に生まれました。旧制中学校3年の時に鹿児島県立志布志中学校に転校し、大正5(1916)年に卒業しました。大正10(1921)年日本歯科医学専門学校を卒業、同12(1923)年宮崎市佐土原町で歯科医院を開業しました。昭和3(1928)年、鱸利彦に油絵具を贈ってもらったのをきっかけに油絵を描き始め、同10(1935)年には瑛九らと共に「ふるさと社」を結成します。還暦を迎えた昭和32(1957)年に県立図書館で個展、昭和47(1972)年県総合博物館で回顧展を開催しました。歯科医を開業しながら身の周りの物やなにげない生活の一隅を好んで題材にし、素朴な画風で表現しました。昭和52(1977)年没。
河野 扶 （かわの たすく） KAWANO Tasuku	大正3(1913)年宮崎県日向市に生まれました。昭和5(1930)年旧制中学校を卒業し洋画家の有田四郎に入門、デッサンや油絵を学びました。翌年川端画学校に学び、昭和10(1935)年京都の旧制第三高等学校に入学しました。在学中に独立美術協会京都研究所で須田国太郎に人体デッサンを学びました。昭和16(1941)年に東京大学理学部数学科卒業後は、会社勤めや教職のかたわら制作を続け、昭和35(1960)年独立展に出品、会友となりました。退職後は毎年のように画廊での個展を開きました。平成14(2002)年没。

作家名	略歴
北川 民次 (きたがわ たみじ) KITAGAWA Tamiji	明治27(1894)年静岡県に生まれました。大正3(1914)年渡米した後、同12(1923)年メキシコに渡り、サン・カルロス美術学校に学びます。昭和11(1936)年に帰国し、二科会を中心に作品を発表しました。メキシコと関わりのある題材、社会で起きた事件、人々の働く姿などを、油彩画や版画で制作しました。昭和26(1951)年北川児童美術研究所を創設、翌年瑛九らとともに創造美育協会を設立するなど、戦後の美術教育にも大きな足跡を残しています。平成元(1989)年没。
レオノーラ・キャリントン Leonora CARRINGTON	1917年イギリスに生まれました。1936年ロンドンの美術学校に入学し、絵画を学びました。翌年エルンストとの出会いを契機にパリのシュルレアリスム運動に参加し、数々のグループ展で作品を発表しました。1942年戦火を避けてメキシコに渡り、母の祖先アイルランドのケルト人に伝わる神話やメキシコ神話など、古代の神話や民間伝承などを題材に、物語性の強い独自の作品世界を築きあげました。メキシコ、アメリカを舞台に幅広い制作活動を続けました。2011年没。
草間 彌生 (くさま やよい) KUSAMA Yayoi	昭和4(1929)年長野県に生まれました。京都市立美術工芸学校絵画科卒業後、ニューヨークに移住し、立体作品やパフォーマンスを発表しました。帰国後は、美術作品の制作発表と並行して詩や小説も手がけました。平成5(1993)年ヴェネツィア・ビエンナーレに日本代表として参加し、国際的に高い評価を得ました。平成10(1998)年ロサンゼルス・カウンティ美術館などでの大規模な回顧展をはじめ、各国で個展を多数開催し、国際展にも多数参加しています。一貫して水玉や網目模様、布製の突起物で覆われた作品を制作しています。平成28(2016)年に文化勲章を受章しました。
パウル・クレー Paul KLEE	1879年スイス生まれ、ミュンヘンの美術学校で学びました。ミュンヘンでカンディンスキーと知り合い、彼の主導する前衛芸術グループ、ブラウエ・ライター(青騎士)に参加します。1920年には、ドイツの総合造形研究所、バウハウスの教授として招かれました。単純な記号、形態と深い色彩により詩的絵画世界を表現しました。1940年没。
小林 敬生 (こばやし けいせい) KOBAYASHI Keisei	昭和19(1944)年島根県に生まれました。昭和39(1964)年京都にあるインターナショナル・デザイン研究所に入り、油彩や水墨の他、あらゆる版画技法を学びました。昭和43(1968)年同専攻科を修了し、翌年上京、洋画家宮永岳彦に師事しました。昭和45(1970)年から日本版画協会主催版画展に出品、後に会員となります。日和崎尊夫に影響を受け、木口木版画を独学で修得し制作するようになります。昭和53(1978)年第2回現代日本版画大賞展で優秀賞を受賞するなど、国内外の展覧会で活躍します。細密に描写された鳥や虫、魚、植物がからみ合う幻想的な世界を、多色刷りの木口木版による大画面に映し出しています。
塩月 桃甫 (しおつき とうほ) SHIOTSUKI Toho	明治19(1886)年、宮崎県西都市に生まれました。本名は善吉といいます。師範学校を出て教職に就きますが、絵画への道を志して東京美術学校に進学します。卒業後、大阪や松山市で学校に勤めながら画業にも励み、大正5(1916)年、文展に初入選します。大正10(1921)年台湾に渡り、台湾美術展の創設に尽力、審査員を務めるなど台湾美術界の振興に努めました。昭和21(1946)年宮崎に引き揚げ、宮崎大学講師や県展(後の宮日展)の審査員を務めるなど、本県美術界に大きく貢献しました。昭和27(1952)年宮崎県文化賞を受賞、フォーヴィスム的な鮮烈な色彩や力強い筆づかいで特異な画風を追求しました。昭和29(1954)年没。
末原 晴人 (すえはら はるひと) SUEHARA Haruhito	明治40(1907)年大阪市に生まれました。宮崎県立都城商業学校を卒業後上京し、同舟舎洋画研究所、川端画学校に学び、小林万吾、藤島武二にデッサンを学びました。昭和8(1933)年から宮崎県内で教職につくかたわら制作に励み、日展や光風会展に出品を続けました。昭和35(1960)年に光風会会員となります。昭和40(1965)年から数回にわたって渡欧し、アカデミーグランシュメールに学び、白を基調とする「地中海シリーズ」を手がけました。優れたデッサン力を生かし、具象だけでなく抽象画も描くなど幅広い画風を展開しました。平成2(1990)年没。
図師 舟堂 (ずし しゅうどう) ZUSHI Shudo	文政11(1828)年宮崎県日南市飢肥に生まれました。本名は菅六郎といいます。伊東藩の藩学で学問と武術を学んだ後、嘉永元(1848)年に江戸に上り、土佐派に学びました。文久3年(1863)年に帰郷します。その頃伊東藩の画所は狩野派の絵師が受け持っていましたが、やがて土佐派である舟堂がかかわって受け持つことになりました。後には、飢肥小学校の図画教員として勤めました。日南市楠原の五百祀(いほし)神社に、77歳の時に描いた絵馬が残っています。明治43(1910)年没。
鱸 利彦 (すずき としひこ) SUZUKI Toshihiko	明治27(1894)年千葉県に生まれ、同29(1896)年に宮崎市に移住しました。大正2(1913)年に東京美術学校(現東京芸術大学)西洋画科に入学して和田英作、藤島武二、黒田清輝らに師事しました。大正7(1918)年同校を卒業、文展に「婦人像」が入選、以後帝展に数回入選しました。昭和5(1930)年からパリに2年間留学し、帰国後は二科会、一陽会に出品しました。昭和40(1965)年に一陽会を退会後は個展を主として意欲的に作品を発表しました。人物画、風景画を得意とし、一貫して穏健なる自然美を追求しました。平成5(1993)年没。

作家名	略歴
ルフィノ・タマヨ Rufino TAMAYO	1899年メキシコのオアハカ州に生まれました。1917年、国立美術学校(現サン・カルロス美術学校)へ入学しますが、保守的な教育法に反発をおぼえ、独学で絵画を学びました。1921年リバーラに認められ、国立考古学博物館民族学素描部長となりました。1928年から国立美術学校で教壇に立ち、美術教育に力を注ぎました。版画、油彩のほか、壁画も手がけました。1991年没。
オスカル・ドミンゲス Oscar DOMINGUEZ	1906年スペインに生まれ、1924年に独学で絵を描き始めました。はじめダリの強い影響を受けた作品を制作、1935年にブルトンと出会いシュルレアリスム運動に参加しました。次第にオートマティスムへ関心を向け始め、デカルコマニーを取り入れて岩山や洞窟、ジャングル等を連想させる幻想的な作品を制作しました。その後、ピカソらの影響を受け、拳銃や電話、タイプライター、電気スタンドといった工業製品をモチーフに取り入れた新しい表現を追究、既製品を用いたオブジェも制作しました。1957年没。
野田 典男 (のだ のりお) NODA Norio	昭和3(1928)年宮崎県高原町に生まれました。日本美術学校油画科時代は林武に師事し、昭和35(1960)年同校の講師となりました。昭和31(1956)年新制作展に入選します。昭和41(1966)年二紀展に初出品、以後毎年出品しました。昭和53(1978)年イタリア美術賞展優秀賞を受賞し、ヴェニス近代美術館に収蔵されました。翌年二紀展で同人賞及び会員推挙となります。昭和57(1982)年モンテカルロ現代芸術国際グランプリ入選、その他、入選・入賞が数多くあり、退職後も絵画教室等で指導しながら制作活動を続けました。令和5(2023)年没。
浜田 知明 (はまだ ちめい) HAMADA Chimei	大正6(1917)年熊本県に生まれました。昭和9(1934)年東京美術学校(現東京芸術大学)に入学、藤島武二に学びました。卒業後の兵役を経て、戦後教職につきますが、絵を描くために単身上京します。昭和24(1949)年頃から駒井哲郎や関野準一郎と親交を持ち、本格的に銅版画を始めました。昭和31(1956)年現代日本美術展で佳作賞、ルガノ国際版画展で次賞を受けます。戦争体験をもとに軍隊の残酷さを主題にした「初年兵哀歌」シリーズや、戦後社会を風刺した銅版画作品で、国際的にも高い評価を得ました。平成30(2018)年没。
パブロ・ピカソ Pablo PICASSO	1881年スペインに生まれました。1900年パリに行き、「青の時代」と呼ばれる沈んだ青い色調による一連の作品群を描きます。1904年パリの木造アパート(通称洗濯船)に住み、「バラ色の時代」と呼ばれる明るい色調でサーカスをテーマに描きました。ジョルジュ・ブラックとともに、それまでの絵画の概念を大きく変えたキュビズム(立体派)を創始しました。その後シュルレアリスム(超現実主義)的な作風へと移行し、戦後は様式にとらわれず自由な制作を続けて彫刻、版画、ポスター、陶芸など各領域に優れた独創性を発揮、現代絵画に大きな影響を与えました。1973年没。
平原 孝明 (ひらはら たかあき) HIRAHARA Takaaki	昭和18(1943)年宮崎市に生まれました。昭和40(1965)年宮崎大学を卒業します。昭和41(1966)年佐賀大学教育学部教育専攻科修了、同年と翌年、日彫展奨励賞を受賞しました。昭和45(1970)年からイタリア国立ブレラ美術大学に留学し、メッシーナに師事しました。昭和48(1973)年日本彫刻会会員無鑑査に推挙されました。その後、日展で受賞を重ね、後に審査員、会員に推挙されました。昭和57(1982)年高村光太郎大賞展美ヶ原美術館賞、同59(1984)年に高村光太郎大賞展優秀賞を受賞し、同年から宮崎大学教育学部教授をつとめました。
ピエール・ボナール Pierre BONNARD	1867年フランスに生まれました。エコール・デ・ボザールとアカデミー・ジュリアンで修業して、ナビ派の一人として出発しました。アンデパンダン展などに出品し、版画やポスターに優れた作品を残しました。1880年から90年にかけて、ゴーギャンに学んだ若い画家たちと共に、新芸術の先駆者を自負してナビ派を結成します。人物画、風景画、静物画などあらゆるジャンルを扱い、色彩豊かな調和と生きる喜びを表現しました。平坦な色面と神秘的で装飾性豊かな色づかいや大胆な画面構成は、フォーヴィスムやキュビズムなどの20世紀絵画に大きな影響を与えました。1947年没。
益田 玉城 (ますだ ぎょくじょう) MASUDA Gyokujo	明治14(1881)年、宮崎県都城町(現都城市)に生まれました。本名を珠城(たまき)といいます。明治28(1895)年、絵を志して京都美術工芸学校に入学しましたが、病気のために休学することになります。回復後、東京美術学校に入学し、明治37(1904)年に卒業しました。その後、円山派の川端玉章に師事します。明治38(1905)年には、東京女子美術学校で教壇に立ちます。同42(1909)年、川端玉章が川端画学校を設立する際に参加し教授となりますが、数年後退職して制作に専念します。大正11(1922)年には山内多門とともに中国に写生旅行をしたり、禅書を学んだりしています。美人画や山水画を得意としました。昭和30(1955)年没。
ジャコモ・マンズー Giacomo MANZU	1908年イタリアのベルガモに生まれました。1919年木彫職人の弟子として働きながら夜間の美術学校で学びました。古典彫刻に強い影響を受け、古典的な格調に表現主義的な要素を加えた作風が特徴です。1938年ヴェネツィア・ビエンナーレで大成を収め、1948年同展ではイタリア彫刻大賞を、1942年ローマ・クアドリエンナーレでも大賞を受賞しました。1940年ミラノのブレラ美術学校教授に任命され、同時にトリノの美術学校にも派遣され教壇に立ちました。1984年には日本の8つの美術館で大規模な個展が開催されました。1991年ローマで没。

作家名	略歴
マン・レイ MAN RAY	1890年アメリカのフィラデルフィアに生まれました。1915年デュシャンらとともにニューヨーク・ダダを創始し、1921年、パリに渡りシュルレアリスム運動に参加しました。この頃、写真機を用いず、印画紙の上に直接物体を置いて感光させるレイヨグラムの作品を制作します。写真のほか、オブジェ、絵画など多くの作品を残しました。1976年没。
宮崎 正二 (みやざき しょうじ) MIYAZAKI Shoji	大正2(1913)年大分県に生まれました。昭和10(1935)年から、大分県下の小学校で教壇に立ちました。昭和23(1948)年に妻の出身地の日向市に移り、商業を始めるとともに本格的に絵に取り組み始めます。新象展に出品し、昭和34(1959)年に新象作家協会準会員となり、同36(1961)年には正会員に推薦され活躍しました。県内でも県展(後の宮日展)で入賞しています。また、日向市の文化振興にも力をつくし、昭和25(1950)年から同42(1967)年まで日向市美術協会会長を務め、日向市文化協会結成の主要メンバーでもありました。昭和60(1985)年没。
山内 多門 (やまうち たもん) YAMAUCHI Tamon	明治11(1878)年宮崎県都城町(現都城市)に生まれました。都城尋常高等小学校を卒業後、狩野派の日本画家中原南溪に入門し日本画の基礎を学びました。21歳のときに上京して川合玉堂の門をたたき、翌年には日本画の巨匠橋本雅邦に入門しました。明治36(1903)年雅号を都洲から本名の多門に改め、その後新しい日本画を目指していた日本絵画協会や内国勸業博覧会、文展、帝展等での作品発表や審査活動において、名実共に日本美術のリーダーの一人となりました。誠実な人柄と強い信念の持ち主である多門の制作活動は、清らかで力強い作品を生み出しました。昭和7(1932)年没。
山口 啓介 (やまぐち けいすけ) YAMAGUCHI Keisuke	昭和37(1962)年兵庫県西宮市に生まれました。昭和60(1985)年武蔵野美術大学を卒業します。昭和63(1988)年日本国際美術展で三重県立美術館賞を受賞、以後日本具象版画展、現代日本美術展などで受賞を重ねます。平成4(1992)年に渡米し、翌年まで文化庁派遣芸術家在外研修員として滞在しました。平成7(1995)年にはデュッセルドルフにも滞在しました。ディープ・エッチングによる強じんなマティエールと重量感のあるフォルムで、従来の版画を超えたスケールの大きな作品を制作しています。また、混合技法による平面および立体作品も制作、発表しています。
山田 新一 (やまだ しんいち) YAMADA Shinichi	明治32(1899)年台湾台北市に生まれました。旧制県立都城中学校を卒業後、川端画学校に入学し、佐伯祐三と出会います。大正7(1918)年東京美術学校西洋画科入学後も、佐伯との交遊は続きました。卒業後は京城(現在のソウル)第二高校で後進の指導にあたる一方、朝鮮半島での美術展や帝国美術展に出品しました。昭和3(1928)年渡仏し、アマン=ジャンに学びました。戦後は京都に居住し、昭25(1950)年日展で岡田賞を受賞します。日展参与や光風会名誉会員を務め、昭和51(1976)年にはフランス政府より国家功労騎士十字勲章を授与されました。平成3(1991)年没。
ジョルジュ・ルオー Georges ROUAULT	1871年パリに生まれました。エコール・デ・ボザールのギユスターヴ・モローの教室で、絵画を学びました。道化師やキリストを主題とした作品を、荒々しい筆致と鮮やかな色彩で表現し、社会の醜悪さや怒り、人間の聖なる魂の歓喜を表現しました。油彩画のほかに、『ミセレーレ』などの重厚で個性的な版画を制作し、20世紀を代表する版画家として位置づけられています。1958年没。
脇田 和 (わきた かず) WAKITA Kazu	明治41(1908)年東京都に生まれました。青山学院中部部を中退して渡欧し、ベルリン国立美術学校に入学しました。帰国後、光風会展を中心に出品し、受賞を重ねて会員となります。昭和11(1936)年新制作派協会の結成に加わり、戦後は同協会展や内外の国際展に数多く出品しました。昭和30(1955)年日本国際美術展最優秀賞、翌年には毎日美術賞、グッゲンハイム国内賞を受賞します。東京芸術大学助教授、後に教授となり退官まで指導にあたりました。子どもや鳥などを主題とした叙情的な作風が特徴です。平成17(2005)年没。
渡辺 小五郎 (わたなべ ござろう) WATANABE Kogoro	明治44(1911)年、東海村(現在の宮崎県延岡市)に生まれました。昭和4(1929)年旧制延岡中学校を卒業後、東京美術学校彫刻科に入学します。昭和10(1935)年同校卒業後は、東京で小学校の教師をしながら制作を続けました。同年二科展に出品した「立女」が初入選、以後二科展に連続して入選し、東郷青児らに認められるなど将来を期待されていましたが、病気のために帰郷しました。昭和16(1941)年29歳で没。